

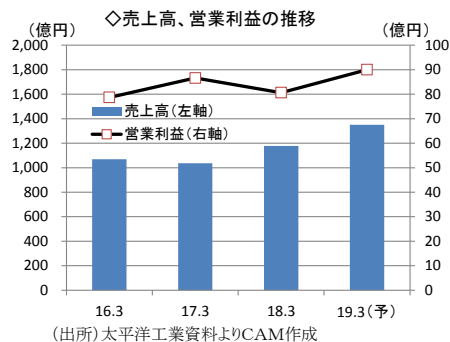
企業ニュース 太平洋工業

(東証1部：7250) <http://www.pacific-ind.co.jp>

作成者：奥村義弘

TPMSの成長期待は高い

1930年設立、自動車用バルブコアの製造を開始。1946年、自動車用プレス製品の製造を開始。現在は、タイヤバルブ業界の世界トップサプライヤーとして知られる。同社のTPMS（タイヤ空気圧監視システム：Tire Pressure Monitoring System）は安全性の向上が求められる業界では成長商品として関心を集めている。18年8月には英国のセンサーメーカーの傘下にあったシュレーダー・グループの米国及びフランスのバルブ開発・製造及び販売事業を子会社化し、日本・アジア・北米・欧州の4極体制を構築。19.3期・第2四半期累計の売上高（営業利益）構成比は、プレス・樹脂70.4%（32.3%）、バルブ29.4%（67.2%）、その他0.2%（0.5%）。



買収事業も加わり業容拡大期待が高まる

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は売上高が642億8,500万円、前年同期比14%増、営業利益が40億3,900万円、同5%増。プレス・樹脂は新製品売上が寄与し同14%増収、営業利益が13億500万円、同75%増。バルブ事業は、売上高が同14%増、営業利益が27億1,300万円、同12%減。TPMS製品及び鍛圧製品の販売が寄与したが、買収に伴う関連費用発生で減益となった。

19.3期の通期会社計画は、売上高が1,350億円、前期比15%増、営業利益が90億円、同12%増。期初計画比で売上高が100億円、営業利益が2億円の上方修正。為替は第3四半期以降1ドル=105円を前提とする。今期におけるシュレーダー・グループの買収効果は、のれん償却により限定的となろう。一方、トヨタ向けのプレス事業ではハイテン（高張力鋼板）材などの高付加価値製品の受注増や円安により利益増が期待できる。中長期的には買収事業のコストシナジーなどに期待できよう。またTPMS装着の法制化が進めば、中国やインド市場での拡販にも期待できよう。中計では21.3期に連結売上高1,550億円、営業利益率8%台を目標としている。

【株価動向・投資判断】

世界的なTPMS装着法制化の動きや、買収効果への期待などから株価は上昇基調にある。バリュエーションには割安感があり評価余地があろう。

<7250 太平洋工業 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	103,669 (▲3)	8,662 (10)	9,957 (10)	7,524 (6)	138.1	28.00
18.3	117,758 (14)	8,063 (▲7)	9,485 (▲5)	7,393 (▲2)	123.5	28.00
19.3 予	135,000 (15)	9,000 (12)	10,500 (11)	7,600 (3)	126.0	28.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2019/1/11)	1,520 円
昨年来高値(高値日)	1,998 円(18/10/4)
同 安値(安値日)	1,278 円(18/12/25)
予想PER(19.3予)	12.1 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,579.7 円
PBR	0.96 倍
予想配当利回り	1.84 %
(1株当たり配当金28.00円)	
ROE(18.3)	8.5 %
発行済み株式数	6,131 万株